

令和4年度特定外来生物（キョン）防除対策検討委員会（第2回）
議事概要

1. 開催日時 令和5年3月1日（水）14:00～16:00

2. 開催形式 WEBによるオンライン会議

※原則としてオンラインでの傍聴としますが、大島支庁仮庁舎第二会議室にて定員（5名）を設定して傍聴を受け入れます。

3. 議事

- 1) 令和4年度の事業進捗について
- 2) 令和5年度 of 取組について

4. 出席者

■検討委員

織 朱實	上智大学大学院地球環境学研究科 教授
加瀬 ちひろ	麻布大学獣医学部 講師
小池 伸介	東京農工大学大学院グローバルイノベーション研究院 教授
羽澄 俊裕	環境省認定 鳥獣保護管理プランナー

■臨時委員

石井 信夫	東京女子大学 名誉教授
佐々木 洋平	一般社団法人大日本猟友会 代表理事会長（欠席）
深澤 圭太	国立研究開発法人国立環境研究所 主任研究員

■関係機関

中田 太	大島町産業課 課長
轟田 奈津希	関東地方環境事務所伊豆諸島管理官事務所 国立公園管理官

■東京都

岡田 拓也	東京都総務局大島支庁土木課 課長
木村 信幸	東京都総務局大島支庁土木課大島公園事務所 課長代理
石田 安識	東京都総務局大島支庁土木課大島公園事務所 主任
中越 淳夫	東京都総務局大島支庁産業課 課長
穴倉 克俊	東京都総務局大島支庁産業課 課長代理
笹原 夏子	東京都総務局大島支庁産業課 林務担当 主任

(事務局)

佐藤 基以	東京都環境局自然環境部 森林再生担当課長
寺嶋 克彦	東京都環境局自然環境部計画課 統括課長代理（森林再生担当）
中村 真悟	東京都環境局自然環境部計画課 森林再生担当

■事務局

一般財団法人自然環境研究センター

5. 配付資料

資料 1-1：令和 4 年度キョン防除事業報告（令和 5 年 1 月時点）

資料 1-2：令和 4 年度キョン捕獲実績（令和 5 年 1 月時点）

資料 1-3：生息状況モニタリングの結果

資料 1-4：植生モニタリングの結果

資料 2：令和 5 年度の取組について

6. 議事内容

（1）令和 4 年度の事業進捗

1) 令和 4 年度の事業報告

- 市街地新規捕獲事業区について、来年度に設置計画案に沿って誘導柵の設置と捕獲を進めるという理解でよいか。
→（事務局）今年度から来年度にかけて設置を進める計画で、一部は既に設置済みである。
- 空港の西側の捕獲カバー率が低い、何か理由はあるか。
→（事務局）昨年度と今年度に事業を拡大したエリアであり、今後順次、設置していく予定。
- 普及啓発チラシに対して島民から反応はあったか。チラシはどこに配布しているのか。
→（事務局）東京都に問い合わせはない。全戸配布しており、港や空港にも設置している。

2) 令和 4 年度の捕獲結果

- 防除市街地の捕獲頭数の内訳で、そのほかに計上されている 134 頭には何が含まれるか。
→（事務局）主に私有地に設置したわなで獲れたものが含まれている。張り網が多い。
→死体回収には何が含まれているか。
→（事務局）多くはロードキルだが、農業被害防止用の柵に引っかかったものなども少数含まれている。
- 今年度の捕獲頭数が減ったのは、どの事業で減った分が大きいのか。
→（事務局）組織銃器捕獲の捕獲頭数は減少した。捕獲頭数は 1 月時点の値なので、3 月までにはさらに捕獲頭数が増えて昨年度並みになると予想される。
- メスの捕獲数についてはどうか。
→（事務局）メスについても昨年度とほぼ同じ割合である。

3) 生息状況モニタリング

- 生息密度指標と植生との関係はあるのか。植物が食べつくされると、それに伴ってキョンが移動するといったような状況はあるのか。
→（事務局）餌はまだ豊富であり、食べつくされた所でキョンもいなくなるという状況はないと思われる。
- 千波崎では撮影頻度も糞粒密度も減っている傾向があるが、これは捕獲圧をかけた結果か。
→（事務局）昨年度に近くで組織銃器による捕獲を開始したほか、周りで単独銃器による捕獲や、張り網も設置しており、捕獲による効果の可能性もある。

- 生息密度の調査地点のうち一部柵内という地点について、柵内外の比較はしているか。柵内で密度指標が低いといった印象はあるか。
 - (事務局) 柵内外での比較はしていないが、柵が閉じて捕獲が進むと減っていく印象はある。
 - 柵内の地点数は少ないので、全体としては、組織銃器捕獲による捕獲の範囲外の傾向を見ているという理解でよいか。
 - (事務局) そう認識している。
- 今年度の値は過年度に比べて糞粒密度のばらつきが大きくなっているが、これは火口域の C1 地点の結果に引っ張られたためか。外れ値にならない地点で増えたか。
 - (事務局) 全体的に密度の高い地点と低い地点の差が大きかった。
 - 組織銃器捕獲で捕獲をしたところで糞粒密度が減り、捕獲圧をかけていないところは増えているといったような傾向はないのか。
 - (事務局) 明快な対応関係は見えない。捕獲や努力量は変わらず糞粒密度が変化したところもある。単年で見ると傾向はわからない。
 - 糞粒密度の上振れが大きい。低温で糞の分解が進みづらかったなど、今年度の気象条件による影響があったのではないか。

4) 植生モニタリング

- 希少種の定義は何か。
 - (事務局) 東京都の RDB 掲載種としている。カテゴリは問わない。
- キョンの生息密度指標と種数の関係については、出現種全てではなく希少植物や嗜好性の高い種などに絞って関係を見ると傾向があるかもしれない。キョンが植生に与える影響は大きいと思う。データの整理の仕方で、もう少し強調できるのではないか。
 - (事務局) 検討する。ただし希少種は出現頻度が低いので解析できないかもしれない。
- 生息密度指標とヤブニッケイの食痕率との関係について、ヤブニッケイの個体数が多ければ、食痕率は低くなるのではないか。キョンの嗜好性と量が分かるように示してほしい。
 - シカの場合、嗜好性の高い植物は真っ先になくなるが、キョンの場合はどうか。
 - (事務局) アオキとカクレミノをよく食べるといわれており、その 2 種類はもうほとんど見ないので食害が進んだと考える。
- 場所によって食痕率に差があるので、種数ではなく被度を使うなど、データを丁寧に見たほうが良い。生息密度が高い状態がどのくらい続いていたかを考慮した解析はできないか。
- 糞粒密度が高い火口域の地点は、植生図でみると何群落になるか。低木林では糞が多いのか。
 - (事務局) ニオイウツギーオオバヤシャブシ群集にあたる。調査地はスコリア地帯と低木林の境界にある孤立林で、キョンがよく溜まっているという印象はある。
 - E3(裏砂漠)はキョンの生育に適していないのか。
 - (事務局) ススキ草地やスコリア地帯である。

(2) 令和 5 年度 of 取組について

- ICT を活用した捕獲の実施とあるが、具体的な想定はあるか。
 - (事務局(東京都)) 火口域においてドローンを使ってキョンを探し捕獲する方法の検討や、

箱わなに自動通報システムを付けることなどを想定している。

→効率化のためか。

→（事務局（東京都））道路から奥に入ったところなど、わなが増えていくと巡回による手間が大きい。また、錯誤捕獲対策への活用も考えている。

- 島全体を大きく分断する分断柵は、令和 5 年度中に完成予定か。どの部分が残るか。

→（事務局（東京都））令和 7 年度の完了を予定しているが、令和 5 年度まででかなりの部分は終わり、目途が立つ。北部の森林域と市街地との間が残る。

- 分断柵がどこまで完成し、今後どこに設置していくのか、最終案を示して欲しい。

→（事務局（東京都））今年度は急傾斜地に分断柵を設置する予定。北東部の急傾斜地で現在空白となっているところは、令和 5 年から 7 年度に設置予定。今後の資料には、分断柵の完了形を示した図を用意する。

- 予算が限られる中で、捕獲をする場所の優先順位の付け方やその方針は示されているか。希少種の分布域に予算と人員を振り分けていく考え方もある。

→（事務局（東京都））今のところ、全域で捕獲圧をかけることが目標であり、希少種保護のために優先するという考えでは整理していない。今後、優先順位については検討したい。

→島民に説明をする際に、守るものがあるという説明が必要でそのバックボーンが必要になる。

→全体計画の中で現在がどの段階であるかが分かるように、スケジュール表を参考資料として示して欲しい。

- 森林域において来年度は今年度よりも捕獲を実施するエリアを広げるか。より捕獲圧をかけることができればよいが。

→（事務局）エリアを広げていく考えだが、マンパワーの制限があるので、残存頭数をみながら検討していく予定。

→捕獲事業区の設置済みのエリアには、少なくとも一回は捕獲に入ったことがあるという認識でよいか。

→（事務局）大半では実施したが、一部に柵設置後間もなく捕獲を実施していない区画がある。

→捕獲対象ブロックの中の柵を設置していない空白エリアには、令和 5 年度中に細分化柵を設置し、捕獲に入るということでよいか。

→（事務局（東京都））一部はそうであるが、南東部の空白エリアは畑や民地が近く、これ以上は捕獲事業区の設定は難しい。単独銃器や張り網、わなによる捕獲になるだろう。

- キョンとるずを市街地における捕獲の見回りのサポートなどで活用できるか。

→（事務局（東京都））今のところ目撃事例の報告までである。柵の見回りなど、事業者の代わりにお願いできるか検討中である。

→事業者をお願いするのが確実だが、張り網にかかった場合やネコの錯誤捕獲など、小まめに巡回してもらえれば速やかに発見できるのでは。

- 誘導柵の効果はあったか。

→（事務局）検証はしていないが、設置したカメラの画像をみると誘導柵沿いに歩いている。完全にフリーの場所よりは可能性が高いと考えている。

→誘導柵の切れ目の箱わなや、誘導柵の出口の張り網にかかり易いかは疑問だ。市街地での新規設置案では、誘導柵の間に張り網を張るような計画となっているが、張り網だけを距離

を伸ばして張った方が効率的ではないか。誘導柵の効果を検証すべき。

- GPS テレメ調査の知見は市街地の防除に活かされているか。
 - (事務局) 調査は実施中であり、現段階では活かしていない。キョンは特定の場所に依存する傾向はなく、耕作放棄地の樹林を広く利用しているという結果になりそうである。
 - 伐採して隠れ場所をつぶしていく考え方もある。
 - 伐採するには面積が広く、その後の維持も考えると現実的ではない。追い込み捕獲のために一部伐採するといった可能性はある。
 - 樹林を囲うという考えもある。
 - モザイク状にある樹林をブロックごとに囲って順番に捕り尽す方法もある。ただし住民の同意は必要だ。
- 箱わなに誘引餌は何か使っているか。
 - アオキを使っており、冬には効果があるとのことである。
 - 市街地での捕獲は戦略を練らないと無駄が多くなるかもしれない。
- 火口域での捕獲試験はどのような内容か。
 - 低木林では組織銃器捕獲を考えている。一方で、草地と裸地では捕獲効率が低いと考えられるため捕獲はしない予定。草地と低木林の移行部での捕獲手法を来年度に検討したい。
- 急傾斜地での捕獲試験はどのような内容か。
 - 人が立入れる場所のうち銃器による捕獲が難しい場所にわなを設置することを考えている。
- モニタリングについては丁寧な解析の手法について検討してほしい。新しい捕獲手法の取り組みについては効果測定するようにしてほしい。
- 検討委員会と工程会議（現場）の間のような位置づけの話し合いが不足している印象だ。中間的な話し合いの場を作っていくことを意識してほしい。
 - (事務局 (東京都)) 検討委員会の資料は年度初めの工程会議で説明している。
 - 年 2 回の検討委員会では結果を踏まえながら事業の方向性を改善していくには十分ではない。工程会議でももう少しそのことを意識して進めてほしい。
 - (事務局 (東京都)) 来年度はその方向で対応する。
- 事業の効果を評価するために捕獲数だけではなく事業ごとの CPUE の年変化も示してほしい。どこで成果が上がっているのかを見るだけでなく、成果を示すことにもなる。
 - (事務局 (東京都)) 細かいデータの出し方については検討したい。
- 専門家意見交換会を、現場に沿ったデータに基づいてブレインストーミングする場に変えてはどうか。回数を増やせばいいが、例えば意見交換会の場に事業者に参加してもらい、ざっくばらんに、整理されたものではないデータで議論ができるとよい。
 - (事務局 (東京都)) 回数を増やすのか、位置づけを変えるのか、検討したい。
 - 走りながら、意見交換しながら結果を出していくという流れに参加できるとよいという思いはある。
 - そのような形でサポートできるとよい。